

図書館長に就任して

家 崎 宏

大学創立40周年にあたる記念すべき平成6年4月、はからずも第11代目図書館長に任命された。私が本学に着任したのは、昭和32年4月であったが、その頃の図書館は、木造平屋建であり、学部も商学部だけであったから、蔵書数もわずかであった。その後、体育学部開設の昭和34年、鉄筋の本館4階（現在の第1会議室）に移転したものの、図書館というより、図書室というにふさわしかった。名実共に図書館といえるようになったのは、昭和43年現在の1号館が完成してからのことである。このとき、学部は商学部、体育学部に加えて、昭和41年に同時開設された文学部、法学部の4学部となっており、蔵書数も急増していた。その後、体育学部の豊田移転に伴い、分室を開設、年々充実して分館となり、現在の豊田図書館にと発展した。現在、名古屋学舎に5学部、豊田学舎に3学部、それに各大学院が着実に設置され、それに伴い蔵書数は60万冊近くになっている。それに今年は、大学創立40周年記念事業として建築されたセンタービルの3、4階に開設されたLSC（ライブラリーサービスセンター）も加わり、着任当時とは打って変わる発展ぶりである。

さて、これまで入試渉外部長や学生部長を、それぞれ長く務めたことがあるものの、学部の図書委員の経験すらない全くの門外漢の私である。果たして図書館長の重責を全うすることができるかどうか不安であった。幸い、福井司郎事務長は、入試渉外部長時代の、また小山尚郎事務長代理は、学生部長時代、それぞれ私を支えてくれた直属の課長であった。小川光男課長は、大学で図書館学を専門に学び図書館勤務20年、平田伸夫課長も、

図書館勤務30年という共にベテランである。実に心強い。とはいうものの、私にとってはゼロからの出発である。こうするといい、ああするといいのではないか、と思っても、図書館業務を把握していなければ、所詮それは素人考え、かえって混乱の種を蒔くことになる。

毎週月曜日、9時15分からは係長以上の役職会、10時からは、事務を非常勤職員にまかせて、全員による館会を開く。この会が重なるにつれて、多種多様な図書館業務の内容が明かになってきた。やっと半年余がすぎたところである。

いうまでもなく、大学の図書館は、大学において行われる研究、教育に不可欠な図書や資料を収集、整理して、利用者である研究者と学生に必要なサービスを効率的に提供することを、その主要な機能としているのであり、館長たる私は、この図書館の果たすべき役割を充分認識し、利用者の要望に応えることのできるよう図書館の整備、充実をはかり、また情報化時代と言われる今日、将来を展望した改善に努めなければならない。その責務は重かつ大であると考えている。皆様のご協力を切にお願いしたい。